

日本電気協会
原子力規格委員会シンポジウム
～福島第一事故を受けた原子力安全の
更なる向上の課題と学協会規格～

2014年5月16日

原子力安全推進協会(JANSI)

伊藤裕之



原子力安全推進協会(JANSI)の設立

- JANSIは、福島第一事故の反省に立ち、二度とこのような事故を起こしてはならないという原子力産業界の総意に基づいて、事業者から独立して強力に原子力安全を牽引する組織として平成24年11月15日に発足
- INPOを参考に安全性と信頼性の向上に取り組む
- 5年後までにすべての活動を本格的な軌道に乗せる

(注)INPO: 米国原子力発電運転協会

ミッション

日本の原子力産業界における、世界最高水準の安全性の追求

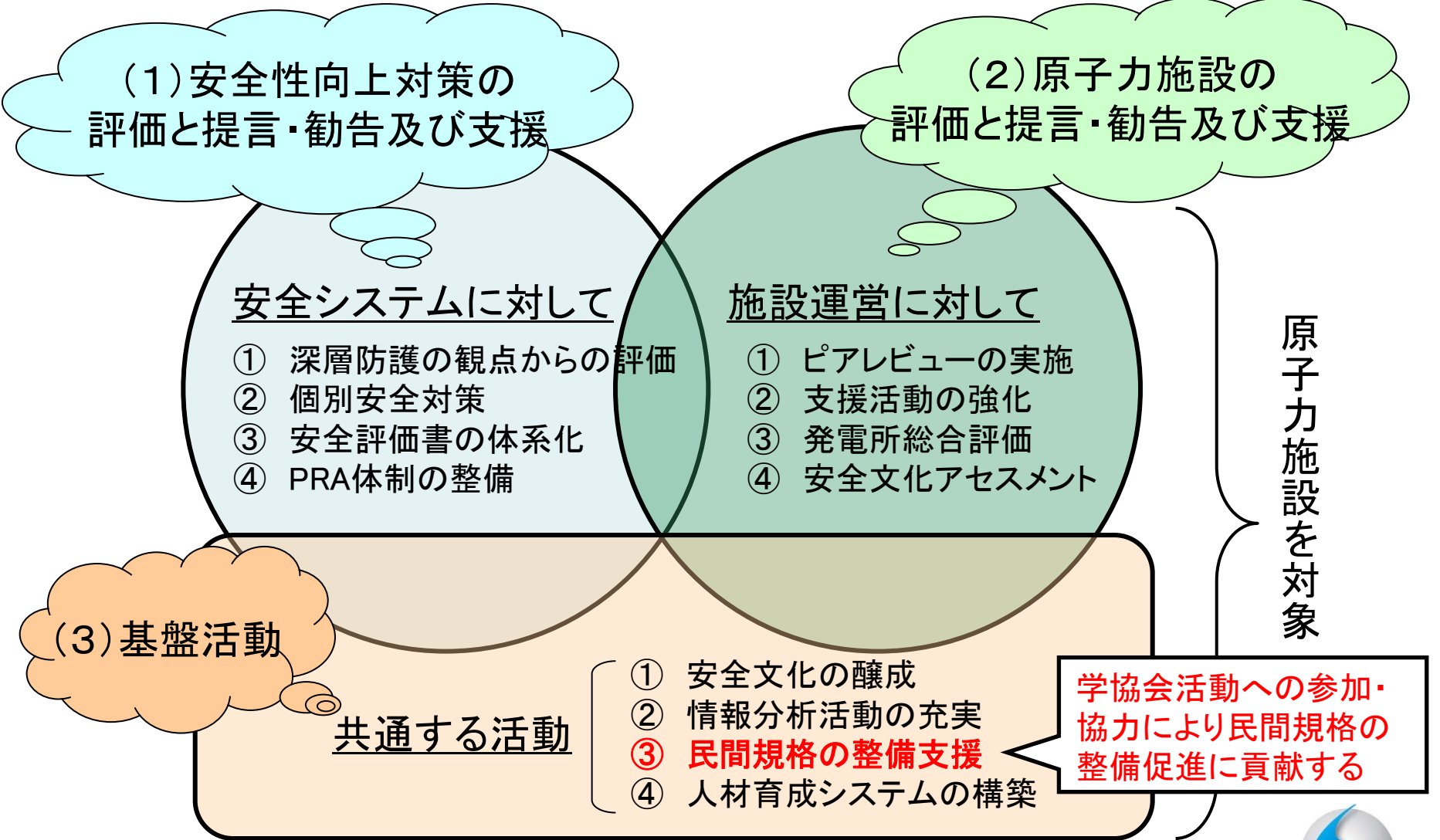
～たゆまぬエクセレンスの追及～

*Pursue the world's highest level of safety
～ Untiring Pursuit of the Highest Standards of Excellence ~*

一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute



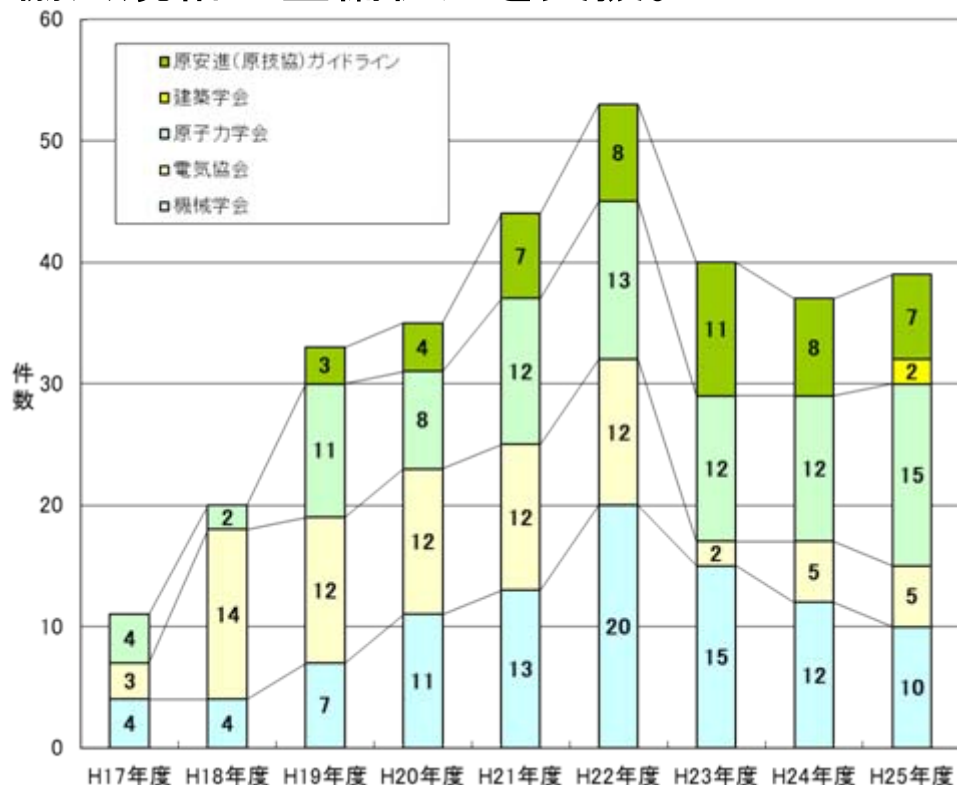
JANSIの活動



学協会規格策定支援活動

学協会活動への参加・協力により民間規格の整備促進に貢献

原子力施設の安全性・信頼性の向上を図るため、民間規格の重要性は益々増大。民間規格策定の中核をなす学協会は、我が国の研究者、技術者の英知を結集する場であり、学協会の活動に積極的に参加・協力して、学協会規格の整備促進を支援。



- 左のグラフは、「学協会の委員会等に、規格の素案を提案した件数」を示す(原子力安全推進協会の設立(H24年11月)以前は、原子力技術協会における実績)。
- 平成25年度は、原子力学会、機械学会、電気協会、建築学会で32件程度。
- その他、当協会の自主ガイドライン(7件)を併記。

Pursue the world's highest level of safety
~ Untiring Pursuit of the Highest Standards of Excellence ~

一般社団法人 原子力安全推進協会
Japan Nuclear Safety Institute



(参考)福島第一事故の教訓

主要な報告書(国会、政府、民間、INPO等)の教訓を抽出集約した7分野(事業者が取り組むべき教訓)

1. 低頻度であるが影響が甚大な事象に対する安全確保のあり方
2. プラントの状態に応じて柔軟な対応が可能なAM戦略
3. SA教育及び実践的な訓練実施
4. 緊急時対応体制の構築と指揮命令系統の明確化
5. より高いレベルの安全文化構築
6. 過酷事故時の通信手段、資機材の確保
7. 被ばく線量管理及び放射線管理

事業者の反省点(自主的・継続的に安全性を向上していく観点から)

- 規制対応で十分であると考え、自主的に安全性を向上していくという姿勢が希薄だった
- 自プラントの安全性を過信し、海外の良好事例に学ぶ姿勢に欠けていた

